



国立大学法人
和歌山大学

平成22年度

教育懇談会 実施レポート

Report

INDEX

- | | | |
|----------|-----------|-------|
| 1 | 当日レポート | P.1~2 |
| 2 | 参加者の声 | P.3~4 |
| 3 | 教員インタビュー | P.5~6 |
| 4 | 大学からのお知らせ | P.7 |

PROGRAM

- 1 全体会**
 - 1-1 学長挨拶
 - 1-2 講演
「脳トレ・筋トレ シニアのエクササイズ
～和歌山大学から介護予防研究が全国発信!～」
- 2 昼食**
- 3 学部分科会**
 - ・各学部の教育方針について
 - ・本年度卒業生の進路状況について
 - ・個別面談
 - ・学部教員との懇談会、学内見学会等



在学生の保護者と大学教職員が一同に集い、様々な情報交換と学生の修学・生活状況についての面談等を行う「和歌山大学教育懇談会」が11月13日(土)に実施されました。

① 全体会 11:00~12:00 基礎教育棟G101教室

午前中の全体会は、およそ300名の保護者が来場。学長からの挨拶と講演が行われ、和歌山大学が実践する教育方針や取り組んでいる研究の紹介などを行いました。

1-1 学長挨拶

和歌山大学の教育方針とは



和歌山大学長
山本 健慈

本日は、県外からも多くの方にお越し頂き、また昨年より50名ほど多くの皆様方にご参加頂き、関心の高さに感謝いたします。歓迎のご挨拶を兼ねて、和歌山大学の教育方針についてお話させていただきます。昨年8月に学長に就任して以来、「学生の生涯の人生を支援する」というキャッチコピーを掲げ、より学生に視線を向けた大学づくりを行っておりますが、残念ながら現在の学生は「分からないことを他者に尋ねる」「困ったときに他者に助けを求める」という生きていく上で最も肝心なことを身につけていない、または失っていると感じます。

本学でも日常的に様々な課題が起こり、役員会でも毎回議論し思案しています。これまでの学生の過去の時間を考え、卒業後の転換や挫折も視野に入れた「生涯の人生支援」が大学の課題であると我々は考えています。幸いにも多くの反響を頂き、先日企業人と役人の方々からなるグループとのインタビューの中で「基礎学力の低下が著しい大学生をどう底上げするかという私たちが思い悩んでいた課題に対して、和歌山大学のリーダーは学生各々の個性を尊重しながら、4年間で学力を含めた人間力を養うことであるという答えにいと簡単に導いてくれた。現場の教授陣は、学問あり、芸術あり、スポーツありと多様なスタイルで、そのまますを受け入れる教育を実践していた。」という評価を頂きました。

学生の生涯を支援するためには教職員の奮闘も必要ですが、18年間彼らのフォローをしてこられた高校以下の教育関係者、卒業後の人生にコミットする企業の方々との連携や協働が不可欠であると考えています。実際に本学経済学部同窓会(相芦会)の方々にはこの考え方に賛同していただき、学部を超えた支援を行える仕組みを様々創っていただいております。この懇談会を機に心配事については気軽に声をかけていただき、保護者の皆様との協働と連携がより発展し、学生たちの明るい未来が築かれることを願っております。



1-2 講演



講師
教育学部
本山 貢教授
(体育学博士)

脳トレ・筋トレ シニアのエクササイズ

1 介護を必要としない身体になろう!

私は健康科学、スポーツ医学、運動医学の領域の研究者として「介護が必要にならない介護予防」という取り組みについて研究をしています。介護保険制度が開始された平成12年度と比較して、介護が必要となった人は当時の約2倍に膨れ上がっています。特に、まだ体力や元気を取り戻すことができるにも関わらず、介護が必要となった軽度要介護者が急激に増えており、社会保障の介護・医療において大きな問題になっています。

みなさんの体力は若い時と同じではなく、少しずつ低下しています。特に歩き方が変わってきたと気づく人がどのくらいおられるでしょうか。膝を持ち上げて歩くという太もも前面の大腿四頭筋と腰椎の前側にある大腰筋の筋力が低下して、自然に歩くスピードが低下し、歩幅が狭くなっています。そしていずれは、杖を利用したり、すり足状態になってしまうというのが「年をとる」という加齢による歩行の変化です。歩幅が狭くなり筋肉が弱ると、転倒しやすく、介護の必要性が加速していきます。特に大腿四頭筋と大腰筋が弱らないようにすることがこれからの重要な課題です。

2 あなたの太ももの年齢は?

腰椎の前側にある大腰筋は太ももを上げるためにとても重要な筋肉です。この筋肉は自分で触ることができないので、どのくらいの大きさなのかわかりません。CTスキャンで撮ってみると20歳から70歳の間で大腰筋は約半分ほどに委縮してしまいます。そこで自分の大腰筋が丈夫かどうか判断する簡単な方法があります。上向きに寝転び膝を曲げ、かかととつま先を床に着けたまま、足を押しさえたり、はずみをつけたりせずに起き上がることができれば60代の体力、片手を頭の後ろで押しさえて起き上がれば50代、両手でできれば40代以下の体力に相当し、大腰筋がまだ衰えていないと判断できます。さあ、試してみましょう。

※注 山本学長は全てクリアできました!(上部写真右)

3 スローに動いて大腰筋を太くする!

筋肉は速筋と遅筋という2種類の筋肉に分けられます。年をとると素早く動くことができなくなり、飛んだり跳ねたりできなくなります。それは、速筋という筋肉が細くなり弱ってしまうからです。速筋が弱ると転倒しやすくなります。

そこで我々は、徹底してスローでトレーニングをするということで速筋を強くするトレーニングプログラムを提案しています。そのトレーニングの効果を科学的・医学的に証明し、和歌山県下各地の介護予防事業に普及・浸透させています。この運動は本当に簡単な運動です。椅子に座り、膝を持ち上げたり膝をのぼしたり、自分の体重を使ってゆっくりと負荷を掛けて行います。さらに台に昇ったり降りたりという運動も徹底してスローで行います。そうすることで筋肉は太くなるのです。

4 認知症予防は、仲間とみんなで運動!

もう一つの試みとして、運動しながら、音楽を唄いながらと複数の課題を大脳の前頭葉・前頭前葉へ同時に刺激を与えます。そうすると体力向上と認知症の予防にもつながるのです。我々はこの運動プログラムを実践する運動教室に自主的に参加している人たちの5年間の介護認定率を調べてみたところ、2.5%の増加でした。しかし、運動教室に参加したが、現在は一人で行っている人の介護認定へのリスクは2倍に、やめてしまった人のリスクは4.5倍に急増してしまうことがわかりました。さらに、運動を継続すると医療費が約8%軽減することがわかりました。特に強調したいことは、運動は一人でするよりも複数の仲間と一緒にいき、人と会って会話をし、コミュニケーションを取りながら行うことが最も重要のようです。現在この運動プログラムは、県内250以上の自主活動グループ、さらに北海道から鹿児島まで、海外ではハワイにも運動のグループが広がっています。

5 本当に90代?

実際にこのプログラムに参加していただいている 宮前さん(94歳)と木根さん(96歳)に来ていただいて、とても90歳代とは思えない元気な姿と楽しいコメントをいただきました。



② 昼食

12:00~13:00
生協第1食堂

全体会のあとは、学生達が日ごろ食事をしている生協第1食堂で実際に昼食をとりました。各学部ごとに分かれ、学長、理事、教員たちとの懇談もいたるところで見られました。



有田みかんのお土産サービスやキャンパスライフ紹介コーナーなども実施。

Subcommittee

③ 学部分科会

13:00~17:00
各学部にて

昼食後は、在籍している各学部ごとに分かれ、学部それぞれの報告や面談などを行いました。

1. 各学部の教育方針について
2. 本年度卒業生の進路状況について
3. 個別面談
4. 学部教員との懇談会、学内見学会等



教育学部 経済学部



システム工学部 観光学部

当日のアンケートから参加された保護者の様々な声を紹介します。

① 平成22年度参加者データ ※参加予約時の数字です

和歌山及び関西圏のみでなく、北は新潟や長野から、南は熊本までと、全国から参加がありました。

学部	学年	学生数(人)	応募者数(人)	参加率(%)	新潟	長野	群馬	岐阜	埼玉	千葉	神奈川	山梨	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	岡山	鳥取	広島	徳島	香川	高知	福岡	熊本	
全学部合計	1	933	98	10.5	0	1	1	0	1	0	0	0	1	3	2	0	3	35	7	4	34	2	1	1	2	0	0	0		
	2	947	56	5.9	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	24	5	3	17	0	0	0	0	1	0	0		
	3	959	54	5.6	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	2	18	4	1	16	2	2	0	1	0	1	0		
	4	1,160	37	3.2	1	0	1	2	0	1	0	1	1	0	2	0	0	17	0	1	7	1	1	1	0	0	0	1	0	
	計	3,999	245	5.6	1	2	2	5	1	1	1	1	3	1	5	2	5	94	16	9	74	5	4	2	3	1	1	2	1	
教育学部	1	198	15	7.6													2	4			9									
	2	203	10	4.9														6		1	3									
	3	188	13	6.9															5	1	6				1					
	4	243	5	2.1				1											2		1		1							
	計	832	43	5.2				1										2	17	1	1	19		1	1					
経済学部	1	340	35	10.3		1	1							2				9	5		13	1	1	1	1					
	2	334	26	7.8				2										11	3	1	8					1				
	3	340	15	4.4										1	1		2	3	1		4	1	2							
	4	433	13	3.0				1					1		2			5			2	1						1		
	計	1,447	89	6.2		1	1	3					1	3	3		2	30	9	1	27	3	3	1	1	1		1		
システム工学部	1	284	40	14.1					1			1		1		1	20	1	4	10										
	2	295	18	6.1			1										6	2	1	5									1	
	3	314	19	6.1		1	1											8	1	1	5	1							1	
	4	405	16	4.0	1							1						9		1	3	1								
	計	1,298	93	7.2	1	1	1	1	1			1	2		1	1	1	42	3	7	23	1	1					1	1	
観光学部	1	111	8	7.2										1	1			2	1		2	1								
	2	115	2	1.7															1			1								
	3	117	7	6.0								1						2	1		1							1		
	4	79	3	3.8								1							1			1								
	計	422	20	4.7						1	1				1	1	1	6	2		5	1						1		

② アンケート集計データ

※アンケート集計数 113

Q1. 所属学部及び学年

Q2. 本日の講演の「脳トレ・筋トレシニアのエクササイズ ~和歌山大学から介護予防研究が全国発信!~」について



Q3. その他、聞きたい講演などあればご記入ください

介護の仕事をしているので、ぜひ本山先生のお話が聞きたかったので参加しました。山本学長のお話も、子どもが和歌山でよかったと思え、親も成長できればと思いました。

海津先生の和歌山の文化財について。尾久土先生のはやぶさの話。

民間企業出身の教授の方に、産学共同の実例や今後の可能性、また企業の求める人材について等、伺いたいです。

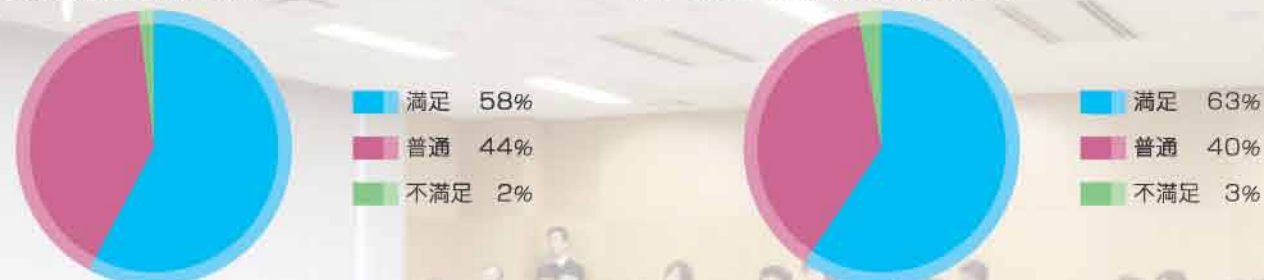
和歌山大学が地域・国内外に向けて発信している活動内容の詳細。『大学力』の向上に向けてどのような活動をしているか知りたいです。

※原文通り

Q4. 学部の分科会について

①教育方針の説明内容について

②進路状況の説明内容について



③個別面談について

④学部教員との懇談会及び学内見学会等について



Q5. その他、教育懇談会についてご意見がございましたら、ご記入ください。

学部の状況が概略把握出来、有意義でした。有難うございました。今後の子どもの進路について、考えていくよき機会となりました。

もっと多くの人が参加すれば、より盛上ると思います。いいイベントだと思います。続けて頑張ってください。

今日一日、講演や教育方針などお話・説明を受けさせて頂き、色々勉強になり、出席して良かったと思いました。個別面談では参考になる事を沢山教えて頂きました。

長時間、私どもの子どものためにアドバイスをくださり、ありがとうございました。今後、家でも話をじっくりしていきます。

楽しく役に立つ本山先生の講演を聞いて大変良かったです。年に一度、下宿する子どもの様子を見に来られて、大学の先生のお話を聞けることを楽しみにしています。

離れて生活しているため学生生活、勉強状況がわからず、先生に直接おはなしができて安心しました。個別面談が大変ありがたかったです。

学部、学校の先生方の暖かい支援をいっぱい感じました。昨年も思ったので今年も参加させていただきました。

今回の教育懇談会は、自分自身にも役に立つ講演でした。大学にきて環境をみて先生のお話をきいてなにかリフレッシュして帰宅できるように感じました。

このような機会をありがとうございました。大学の活動状況や学生のサポート等よく理解できました。とても安心しました。

子どもの生活の場を色々見る事が出来て良かったです。学食も明るく、美味しかったです。しっかり卒業できるように頑張ってもらわねばと思います。帰、入れて帰ります！

※原文通り

個別面談を経て思う
「和歌山大学のこれから」

学部分科会の中で保護者との個別面談（事前予約制）に出席した各学部の教員に、懇談会を終えた所感や想いを伺いました。



教育学部
山崎 由可里
教授

学部学生委員

大学と保護者の関係について

大学が学生・保護者に対してここまで歩み寄る姿勢は、昔を思うと大きく変わったと感じています。個人的に親身すぎる対応はますます学生を大人に育てられないのではないかと一抹の不安がありますが、一方で学生委員として成績の振るわない学生に連絡し、話を聞いている経験上、「入学後に躓き、付き合いもなく、家から出られなくなった」学生に対するフォロー策として、こういった姿勢や仕組みは有効だと思います（単にサボった結果として成績不振になった学生は、きっかけさえ作ってあげれば自分で立ち直れるのである意味心配ないと思ってます）。

また、学生に聞いても分からない事が保護者と話せば分かる事もあります。懇談会に来られるご家庭は大学・保護者・学生の3者が個別に話す事でそれぞれ共有できることも多く、問題も顕在化するのではむしろ安心ですが、色々な事情で懇談会に保護者が来られない学生の学習や生活状況について、もう少し気づいてあげられる仕組みが教育機関として必要なのかなと思います。

成績表送付も同様で、親元に送られることで何らかの反応があるご家庭はいいのですが、成績表を見ても危機感や関心を持たない保護者

もやはりいらっしゃいます。マンパワーや業務負担のバランスもありますが、後者のようなご家庭への歩み寄りやフォローをどうしていくのかに、大きな課題を感じます。

和歌山大学が提供すべき教育内容・修学環境について

本学は独立した教養系学部がありません。初年次教育として学部関係なく基礎的教養を学べる仕組みが強化され、専攻別の人間関係だけではなく様々な学生や教員と関わる機会がもっと増えればいいと思っています。学生側の利点だけではなく、学生の学習姿勢に対する教員の気づきにもそれは繋がります。例えば体育や語学の先生は授業特性上、必ず出席を取りますが、出席状況や参加姿勢が全体の単位取得状況と比例しがちなため、学生の修学状況にとっても敏感です。やはりマンパワーや規模の限界はありますが、大講義とゼミの間ぐらゐの学生規模で、基礎的教養を切り口に様々な若年次学生と接する機会があればいいと感じます。

また、もう横並びの時代ではありませんので、大学全体で知恵を絞り他大学との差異点を多く作るべきです。例えば、在職者・同窓生はじめ広く協力を呼びかけている和歌山大学基金を原資に和歌山独自の給付制奨学金制度をつくるなどの「目玉」が増えれば、「和歌山大学でいい」ではなく「和歌山大学がいい」という気持ちで入学する学生が増えていくでしょう。来て良かったと思う学生がもっと増え、その気持ちを自分の言葉で後輩に伝えるような流れがもっと増えて欲しいと思います。

教育懇談会を終えての感想

参加させて頂き、保護者方が皆様大変熱心で感心いたしました。ただ同時に小学生時代の家庭訪問のシーンがフラッシュバックしました。過去と比較して、保護者はより心配性に、学生は少し幼くなっているなというも率直な感想です。

大学と保護者の関係について

これまで保護者と大学が直接やり取りする事はあまりない状態でした。もう少し正確に表記しますと、「必要

以上にしなくてもよく、必要な場合も基本的に学生を介して行う。そしてそれで十分成り立つ」という関係だったと思います。しかしこれからは、大学と保護者も必要に応じて直接やり取りしなければならない時代になってきたのかなと感じています。

和歌山大学が提供すべき教育内容・修学環境について

社会のニーズに適応でき、かつ学士卒・修士卒に値する学力を養える機会や仕組みを整備・提供すべきと感じます。保護者の希望をすべて聞き入れるには限界もありますが、教育機関として「この部分を特に重視している、このような実証結果に基づき自信を持って学生を育てているので、安心して私どもにお預け下さい。」と言いつける教育プログラムを構築し、実践することで、学生が将来の見通しを立てながら成長できる環境を提供すべきだと思います。

教育懇談会を終えての感想

我々の頃の親は大学がどんなところか知りませんでしたし、知ろうともしませんでした。今の保護者は大学生になった子どもへの関心（悪く言えば干渉）が強くなっていると感じます。子どもが大学でどう過ごしているかを気にされる保護者が非常に多く、中には三者面談を行ったほうが良いと言われる保護者もおられました。ただ、学生本人ではなく、親御さん自身が「わが子はこうだから」と性格や適正を決めつけた上で、大学側にこうして欲しいと要

望を挙げるケースがあったのには少し驚きました。

そういった傾向にある保護者に向けて正しい情報を伝える事は必要で、理系学生のハードな教育研究環境、例えば授業の進め方や卒業研究に対する取り組み方やハードルの高さなどを理解してもらう機会は重要だと感じます。

「大学生は遊んでばかり」「就職率が低い」など、マスコミ報道を鵜呑みにしている保護者も見受けられますが、本学部の学生は遊ぶ余裕はほぼありません。理系学生を取り巻く教育研究環境に関する正しい情報を、大学として積極的に流す必要があると思います。ただしwebに掲載するだけでいいかと言えばそうでなく、顔を突き合わせることでニュアンスも含めた正しい情報が初めて伝わります。その意味でこういった懇談は有用だと感じます。



経済学部
キャリア
デザインオフィス
小林由佳
特任助教

学部キャリア支援



システム工学部
光メカトロニクス学科
野村孝徳
教授

学科就職担当

教育懇談会を終えての感想

面談は昨年に引き続き二回目、今回は3年生を中心に、2年生、1年生の保護者ともお話できました。単位取得状況や、単位数はあっても成績内容が不振である学生の保護者と膝を交えて話すことは修学状況改善につながりますし、大学に対するさまざまなご意見を頂く事は我々にとっても有意義な経験となります。また、来たる就職への意識を保護者に共有して頂く良い機会でもあり、将来について親子で考えるきっかけになればと思います。ただ学生と保護者との間のコミュニケーションや、場合によっては相互の信頼関係が希薄になっているケースが結構あるのではないかと感じました。

大学と保護者の関係について

価値観は時代に即して変化するので、我々の時代と一概に比較できませんが、当時の大学生は今よりもはるかに大人扱いされていたと感じます。単位や成績、卒業、進学、就職は学生本人が管理し決断すべきで、当時の保護者は状況を気にはしますが、責任を取るべきは学生本人、取って深くは関与せずという気風だったように思います。今は様々な理由から、子どもの状況に強い関心を持ち、積極的に把握しようという気風に変化しています。大学はそのような要求に対して無視せず応える必要があり、今後もますますその要求や関係は深く、強くなると感じています。教員側の負担は今よりも大きくなりますが、それぞれの学生についてより状況を把握し、教員間で情報共有する事をより強く求められるようになると思います。

教育懇談会を終えての感想

観光学部は今年も保護者参加率は高く、報道も影響し、やはり就職が最大の関心事でした。例年は3年生保護者の関心は高くても1・2年生保護者はそれほどでないのですが、今年はすべての学年の保護者が卒業後の就職・進路に高い関心を示されていました。それに応える話として、観光学部では第一期生がいよいよ卒業ですが、既にほとんどの学生に「内定」が出ている事を報告しました。世間や他大学では内定率が6割という状況もある中での「内定率100%！」。また学生ひとり一人に届く相談・指導の「場」としての「観光学部キャリアセンター」を立ち上げたことも紹介しました。

またこれは全学の取組ですが、本学は「大学生の就業力育成支援事業」に選定されました。全国で500近い応募の中、180大学が選ばれました。これにより学生の「学び」と「成長」の「しくみ」がますます進化します。就職活動期だけに限定せず入学時から初年次教育に始まるキャリアサポートの充実を図ります。「キャリアとは？働くとは何か？」を学びの中で考える教育の「しくみ」と学生ひとり一人の学修と進路希望に応える相談・指導等の「しくみ」で学生の就業力育成を両面から支援します。これらの話に保護者は安心された様子で、期待も大きいと思います。

大学と保護者の関係について

法人化から6年間が経ち様々な変化がありました。保護者と大学の関係も、より親密に、より距離が近くなりました。今後、その「接近」から大学の教職員と保護者の「協働」が、様々な「かたち」で始まるのではないのでしょうか。4年間の学生生活を協働して見守り支援し、ひいては卒業後の人生をも支援する（和歌山大学「人生支援宣言」）ために手を取り合うのだろうと感じます。この流れは強まるだろうし、強めていかなければならないと思います。

大学の使命は研究・教育・社会貢献。従来はとすれば研究のみに重点が置かれていると指摘されてきましたが、法人化後は学生の教育面や生活面を支援する機能を強め、「学生中心の大学」創りを進めてきました。その重要性は今や大学の設置形態を問いません。大学にとって最大のステークホルダーは学生ですが、学費を負担し、成長を見守る保護者も共に最大かつ重要なステークホルダーです。その最も大切な学生・保護者

和歌山大学が提供すべき教育内容・修学環境について

自分の周辺を考えてみますと、教育内容や修学環境にはさほど問題があると思いませんし、問題があるという外部意見も出てきていません。大学側の論理や外的圧力により学生を振り回すのではなく、卒業後にどのような知識や資質が各分野ごとに要求されるのかを中心に考えた教育を行うのであれば良いと考えます。ただ、必要とはいえ、入った時から就職就職と急ぎ立てられて、本当に学生は幸せなのだろうか、大学生活を楽しめるのだろうか、学問の面白さに気づくことはあるのだろうか、という考えはあります。

一方で大学は、古き良き時代の姿ではもはやありえず、学生と保護者の架け橋になり、過保護や過剰対応は必要ありませんが、現状グレーゾーンとされている領域も大学の動きとして求められるのかもしれない。それと同時に、世間の荒波に耐えうる人材を育て輩出しなければなりません。そのバランスをどう取るのかを考えていく必要があるでしょう。



システム工学部
精密物質学科
橋本正人
教授

学科教務委員

の「目線」で様々な改革が行われてきましたが、この6~7年を経て、それがスタンダードな文化、風景になってきたと感じます。大学は「ユニバーサル時代」を迎えたと言われます。「大学全入」との「捉え」もありますが、「万人のための大学教育」、誰もが何時でも大学・高等教育を享受できる時代。それが生涯教育時代の大学の姿だと思います。

和歌山大学が提供すべき教育内容・修学環境について

「大学ユニバーサル時代」を迎え、聞き慣れない言葉ですが、「学士課程教育の構築」が日本の大学の課題となっています。大学は学生に「何を教授した」だけでなく、学生が「何を学び」「何ができるようになった」のか？言い換えれば4年間の学部教育の成果、アウトカムがいま問われています。大学の「教育付加価値」の問題、学生がどのように「学士力」を身に付けたのか？これは世界の大学に共通する課題です。ヨーロッパでは大学発祥の地であるイタリアのポローニャに各国の大学が集まって「ポローニャプロセス」が合意され、各国の大学教育の「しくみ」を整えて学士号授与における「EU標準」を創ろうとしています。

この世界的潮流の中で、卒業に必要な単位数だけではなく、「学んだ内容」と「どんな力をつけ、何ができるようになった」のかを重視する流れがより強くなればいいと思います。観光学部は実践的な「学び」を採り入れやすい学部。学士課程教育のなかで注目されているPBL（project based learning：学習者中心、課題にもとづく学習）にも積極的に取り組んできました。アカデミックな学びとともに、地域へ、企業へ。それが「社会人基礎力」に言う「考え抜く力、一歩踏み出す力、チームで働く力」を培うと思います。産学官や地域の関係性の中での「学び」とそのプロセスを重視し、サポートする学習環境を整備していく事が最も重要だと思います。



観光学部
観光経営学科
小畑力人
教授

学長補佐(キャリア支援担当)
および
就業力育成支援事業委員長

4 和歌山大学からのお知らせ

① 次回予告

平成23年度教育懇談会は
11月12日(土)に
開催予定です。

※開催決定後、追ってご連絡致します。

② 和歌山大学が目指すゴールビジョンを示す 「和歌山大学2011-2013 行動宣言」を策定

国立大学法人和歌山大学は、昨年4月より第2期中期目標・中期計画に基づいて教育、研究、大学経営を展開しています。しかし中期目標・中期計画の各項目を達成すれば、どのような大学となるのか、どのように社会への貢献ができるのかのイメージは、必ずしも鮮明には伝わりません。私たちは、大学内部の学生・大学院生、教職員に対しても、学外の地域・社会に対しても、いかなるゴールに向けて活動しているのかを、より鮮明に伝えることが必要だと考えます。

このため、第2期中期目標・中期計画の諸課題を凝縮させ、2013年3月までに和歌山大学が達成を目指す、7つの重点課題を設定しました。

今後は、この7つの課題の実現を強く意識しつつ、全構成員の参画と協働で第2期中期目標・中期計画の諸課題を総合的に実現するべく大学経営を遂行します。

和歌山大学2011～2013行動宣言 2011年1月26日役員会決定

I 時代と社会が求める深い教養と、他者とともに問題解決に取り組むことのできる実践力をもつ人間を育てます

II 学生の学習、研究を支援する図書館を目指します

III 和歌山の地域と世界にとって不可欠な農・林にかかわる地域創造支援事業に取り組みます

IV 中学生・高校生が憧れと入学への希望をもてる大学にします

V 同窓会等と連携し学生・卒業生の生涯を支援します

VI 大学構成員のやる気を高め、持続的に自己改革する組織をつくります

VII 次の時代の大学経営を担う人材を養成します

宣言の全文はこちら

③ 和歌山大学基金へのご協力をお願いします。

優れた学術文化の創出に向けて「和歌山大学基金」を設立しました。学生たちの熱意を是非ともご支援ください。

基金による事業計画

基金創設記念期間目標額3億円 (2009年1月～2011年12月)

基盤事業(教育・研究・社会貢献)

● 人材育成

- 奨学金制度の充実
- 留学生支援
- 課外活動支援
- 寄附講座の開設
- 教育・研究設備等の整備の充実

● 国際・研究交流活動

- 海外協定大学から外国人研究者の招聘助成
- 海外協定大学との研究者・学生交流助成
- 教員に対する学術的研究集会への参加・発表助成

● 地域社会への貢献

- 地域活性化のための事業推進
- 東南海地震への対策(防災、減災)
- 和歌山の自然環境の調査・保全
- 公開講座の開設、地域教育の推進

観光学部創設記念事業

国際的な観光学の教育研究発信拠点の構築

● 教育・研究環境の整備充実

- 観光学部棟の施設整備
- 観光学研究成果を世界へ発信するための整備

● 学生支援活動

- 国内外インターンシップ助成
- フィールドワーク参加支援

● 観光事業への貢献

- 地域社会貢献に関わる事業の推進
- 国際貢献に関わる事業の推進

基金への寄附方法

和歌山大学基金室までご連絡をいただくか、寄附申込用の振込用紙を本学ホームページの書類請求フォームに必要事項をご記入ください。和歌山大学基金資料、振込用紙一式を折り返しお送りいたします。

お問い合わせ先

和歌山大学基金室

〒640-8510 和歌山市栄谷930
TEL: 073-457-7141 FAX: 073-457-7140
E-mail: kikin@center.wakayama-u.ac.jp
http://www.wakayama-u.ac.jp/fund/
詳しくは

④ 和歌山大学後援会のご案内

「和歌山大学後援会」は、現役学生の保護者と後援会事業を援助する篤志家で構成する組織です。

昭和24年10月に学生の保護者および有志の方々で組織され、大学の教育・研究環境整備の充実と学生の生活をより有意義にする事を目的に、これまで様々な協力援助を行ってまいりました。

本会の趣旨にご賛同の上、ぜひご入会頂ければ幸いです。会費については、入学時にお願ひするだけでございます。

和歌山大学後援会

教育学部
支部

経済学部
支部

システム
工学部
支部

観光学部
支部

詳しくは、入学手続きの際にお渡しした「入学手続案内」の納付金一覧をご参照頂き、各学部ごとにお問い合わせください。

平成22年度 和歌山大学教育懇談会実施レポート

- 平成23年3月発行
- 編集発行 和歌山大学 教務課・広報室
〒640-8510 和歌山市栄谷930
TEL: 073-457-7106(教務課)
073-457-7010(広報室)
- デザイン 株式会社クリエイティブフォーラム
- 印刷 中和印刷紙器株式会社